

こんな
取組です

熊本県教育委員会 地域学校協働活動モデル地域指定事業(玉名教育事務所管内) ～主体性をもった子どもの育成～

長洲町教育委員会	●目指す子供の姿	●身に付けさせたい子供の力
	主体性をもち自ら取り組むことができる子供	自ら気づき 考え 行動できる力
学校や地域の課題	①学校：4小学校と2中学校と計6校が存在する本町では、それぞれの地域の特色があり、各校がその良さを生かしながら実践するも小・小連携、小・中連携が若干取れていない。また、教職員の意識・認識等に多少の差が存在している。 ②地域：地域学校協働活動と学校運営協議会の一体的な取組の意義や必要性、内容の理解が地域に広がる取組が必要である。	

● 取組の概要・特徴や工夫

○地域学校協働活動推進員と統括推進員(以下、推進員)との定期的(週2回)なミーティングの実施、推進員・統括推進員と地域連携教職員(各学校1名)・放課後子供教室コーディネータ(小学校4名)・教育委員会事務局での本部会議の実施(年3回)、地域住民・校長・PTA代表・社会教育関係者等(19名)での運営委員会の開催(年2回)等の多様な推進体制で進めている。
 ○学校現場では、運営協議会に児童生徒参加による熟議を実施するとともに、五者連携や意見交換のスタイルも取り入れ推進している。
 ○学校運営協議会は各学校(6校)、年5回ずつ開催されるが、統括推進員も出席し、指導・助言を続けるとともに「学校を核とした地域づくり」「地域とともにある学校づくり」の啓発や協力を依頼しながら、推進している。
 ○学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組の充実のため、また、人と人をつなぐため実際の協働活動に関わる方のコーディネーター会議を開催することとした。
 ○従来、弁論が中心であった「長洲町を明るくする運動(社明運動)」でのプログラムを地域学校協働活動の実践をプレゼンする内容に切り替え発表するスタイルに変えたことで、地域住民の理解の深まりにつながった。

● 取組の実際



子供を真ん中に、児童生徒による意見交換に大人が何ができるか五者連携での熟議ができた。

年間を通した一連の実践

- ・粃種植つけ
- ・田植え
- ・稲刈り

1年生から卒業するまでの6年間、体験することで、段取る力や地域の人々とのコミュニケーション力が身に付く実践である。

● 地域学校協働活動における効果・成果

○一体的な推進
 ・長洲町全体での最上位の目標を設定し、共有・実践するためにも学校運営協議会には地域学校協働活動推進員が委員として組織し、指導・助言を続けるため、各委員の認識も大きく違わなくなっている。
 ・学校運営協議会での議論内容と実際の協働活動に関わる地域の人材とのつながりのため、具体的な活動に関わる方との「コーディネーター会議」を開催してきたことで、一体的な取組ができています。
 ○人材育成
 ・「主体性をもった子どもの育成」「子どもをお客さんにしない」等を合言葉に実践することで「学校を核とした地域づくり」の人材、地域の教育力が育ちつつある。
 ・人材不足の感否めないが、人員のさらなる増員を進めていくが、地域学校協働活動推進員の意識も高まり、推進員からの助言にて地域の人材も育ちつつある
 ・子どもたちと地域が互いに「顔の見えるコミュニティ」の関係性ができつつあり、子どもたちのコミュニケーション能力や地域の一員としての意識も高まりつつある。
 ○学校や地域が抱える課題の解決
 ・人材の確保を課題として考えているが、推進員や学校運営協議会委員・運営委員会等でネットワークづくりを進めている。特に、推進員の積極的な活動により、人伝えで、ピンポイントの声かけでも効果を上げている。
 ・また、長洲町の強みである企業との連携・協力ができている。企業の専門性と派遣人数に学校現場からは高い評価で、持続可能な出前授業に定着している。さらには、工場見学も融合した取組としてスムーズな実践ができています。